

令和 6 年
(2024)

あわら市観光白書

令和 7 年 5 月

あわら市

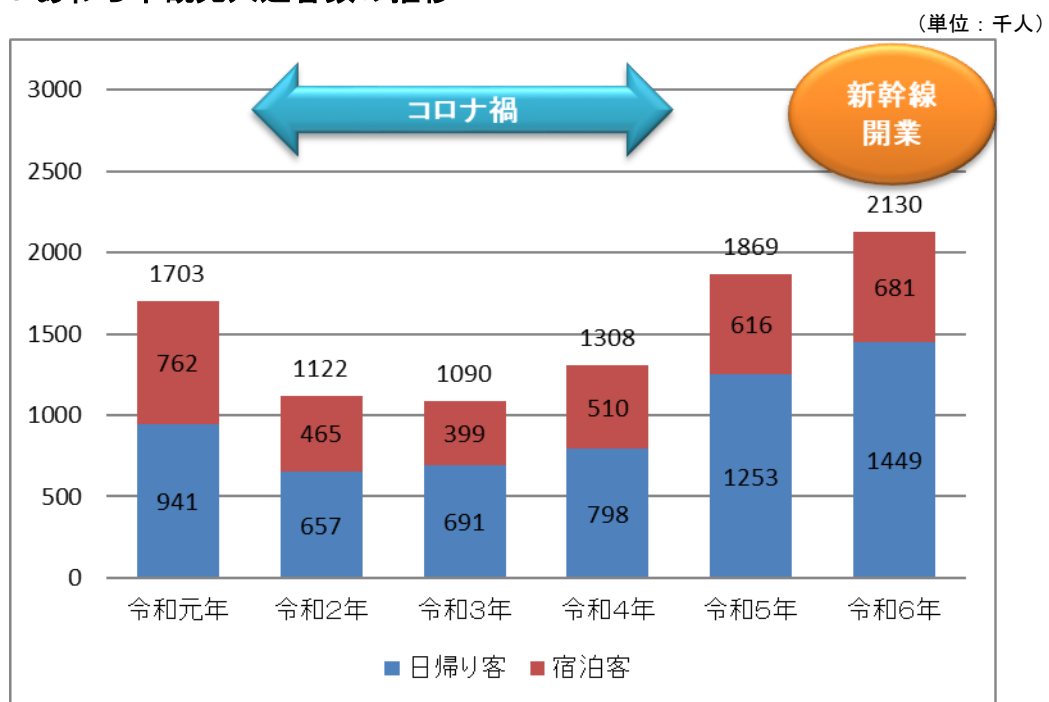
令和6年あわらし観光白書

1 令和6年実績

I 観光入込客数

令和6年1月から12月までの1年間に本市を訪れた観光客は、2,129,600人(対前年増減率14.0%、260,700人増)で、このうち宿泊客は681,100人(同10.6%、65,200人増)、日帰り客は1,448,500人(同15.6%、195,500人増)と、前年と比較してともに増加し、宿泊客と日帰り客を合わせた観光入込客数は過去最多となった。

図1：あわらし観光入込客数の推移



Ⅱ 観光地別観光客数

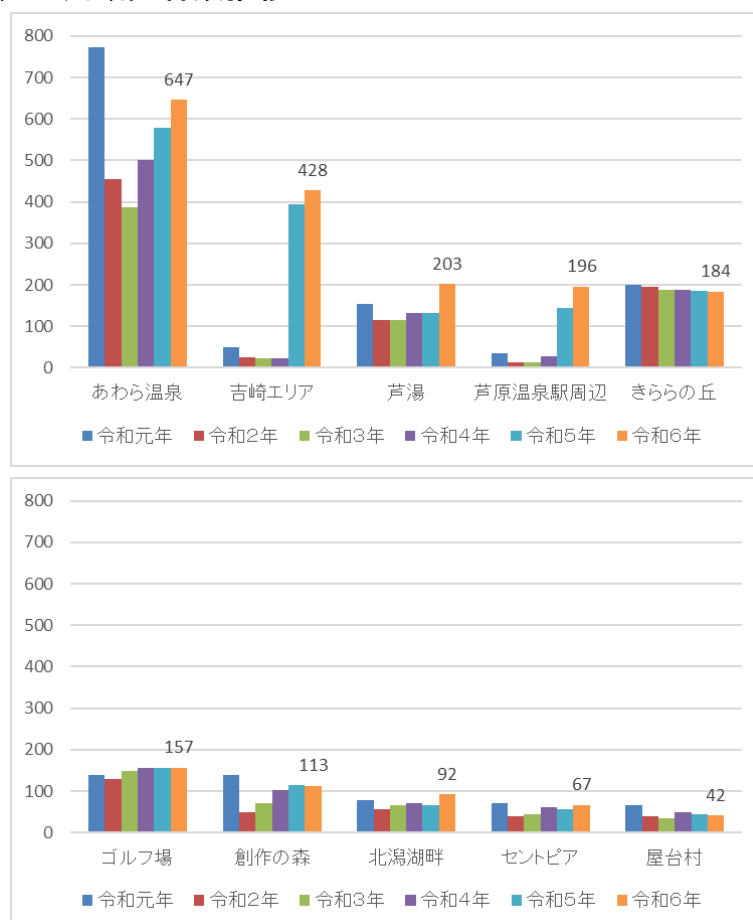
観光地別では、あわら温泉（※１）の646,900人（対前年増減率12.0％増、69,100人増）が最も多く、次いで吉崎エリアが428,400人（同8.4％増、33,200人増）、芦湯が202,700人（同55.3％増、72,200人増）、芦原温泉駅周辺（※２）が195,600人（同35.5％増、51,300人増）、農産物直売所「きららの丘」が184,200人（同0.5％減、900人減）、ゴルフ場が157,500人（同1.3％増、2,000人増）、金津創作の森美術館が112,900人（同1.2％減、1,400人減）、北潟湖畔が92,200人（同39.7％増、26,200人増）、セントピアあわらが67,100人（同20.4％増、11,400人増）、あわら温泉屋台村「湯けむり横丁」が42,200人（同5.1％減、2,300人減）となった。

（※１）あわら温泉：あわら温泉宿泊者、芦原温泉春まつり、開湯140周年関連イベント（あわら灯源郷、あわら湯けむり映画祭等）、あわら湯かけまつり、北陸新幹線芦原温泉駅開業記念イベント（あわら湯のまち広場開催分）、小倉百人一首競技かるた第56回全国女流選手権大会

（※２）芦原温泉駅周辺：芦原温泉駅西口賑わい施設「アフレア」（イベントのみ）、ホテルプライムイン福井あわら、aキューブ、北陸新幹線芦原温泉駅開業記念イベント（芦原温泉駅開催分）

図２：観光地別観光客数推移

（単位：千人）



Ⅲ あわら温泉宿泊客について

あわら温泉の宿泊客は623,400人（県内:127,800人、関西地方:192,700人、関東地方:105,500人、中京地方:95,900人、北陸地方:51,200人、その他:50,300人（国内その他43,000人、国外7,300人）で、対前年増減率10.9%増となった。県内客は微減（同0.3%減）となったものの、県外客は同14.3%増となった。

県外客の内訳を見ると、関西地方が対前年増減率2.5%増、関東地方が同80.9%増、北陸地方が同29.7%増、国外を含むその他地方が同21.4%増となった一方、中京地方が同10.0%減となった。特に関東地方の増加が顕著であり、北陸新幹線芦原温泉駅開業による一定の効果があつたとみられる。

月別で見ると、能登半島地震が発生した影響もあり、1月から3月までは前年比減となったが、3月16日に北陸新幹線芦原温泉駅が開業し、4月以降は前年比増となった。

図3：地域別あわら温泉宿泊者数の推移

（単位：千人）

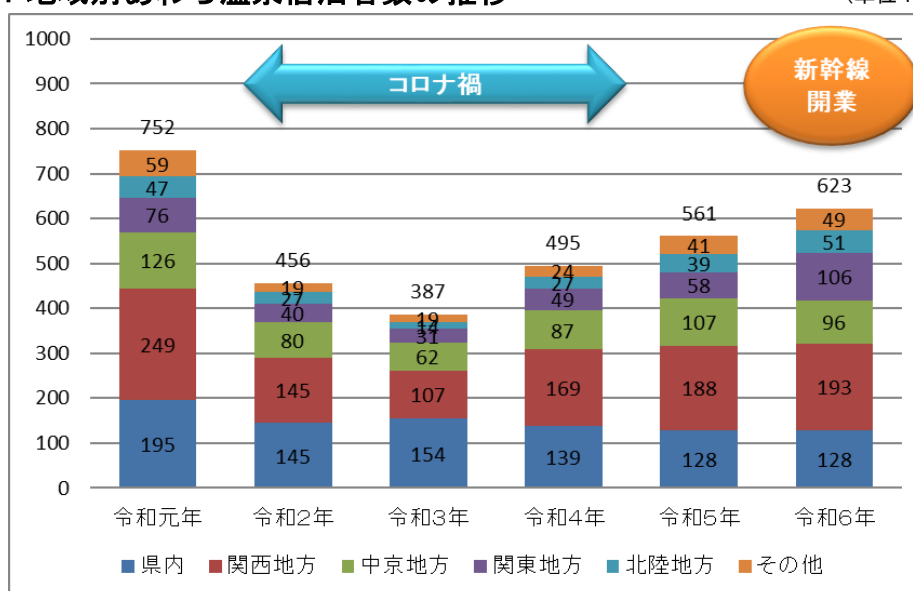


図4：あわら温泉における令和6年県外宿泊客(495,000人)の割合

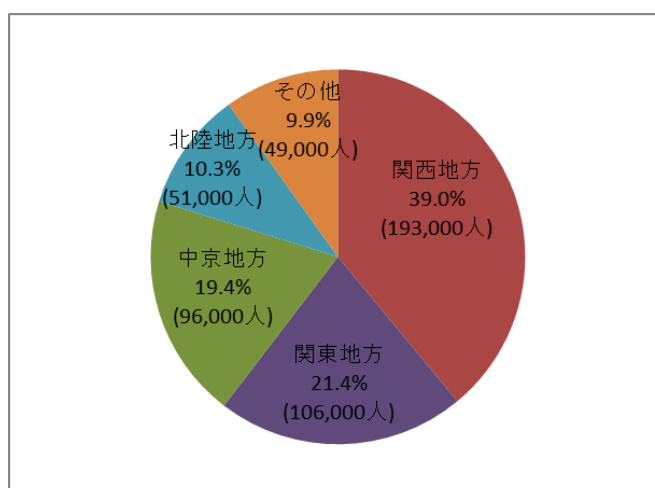


図5：あわら温泉宿泊者数（月別）

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計
令和6年	28,028	33,092	54,346	54,325	47,523	43,607	54,114	82,250	52,150	54,101	64,377	55,477	623,390
令和5年	32,445	33,703	55,346	36,133	41,523	34,617	51,341	76,220	42,259	48,773	56,775	52,756	561,891
対前年増加率	-13.6%	-1.8%	-1.8%	50.3%	14.4%	26.0%	5.4%	7.9%	23.4%	10.9%	13.4%	5.2%	10.9%

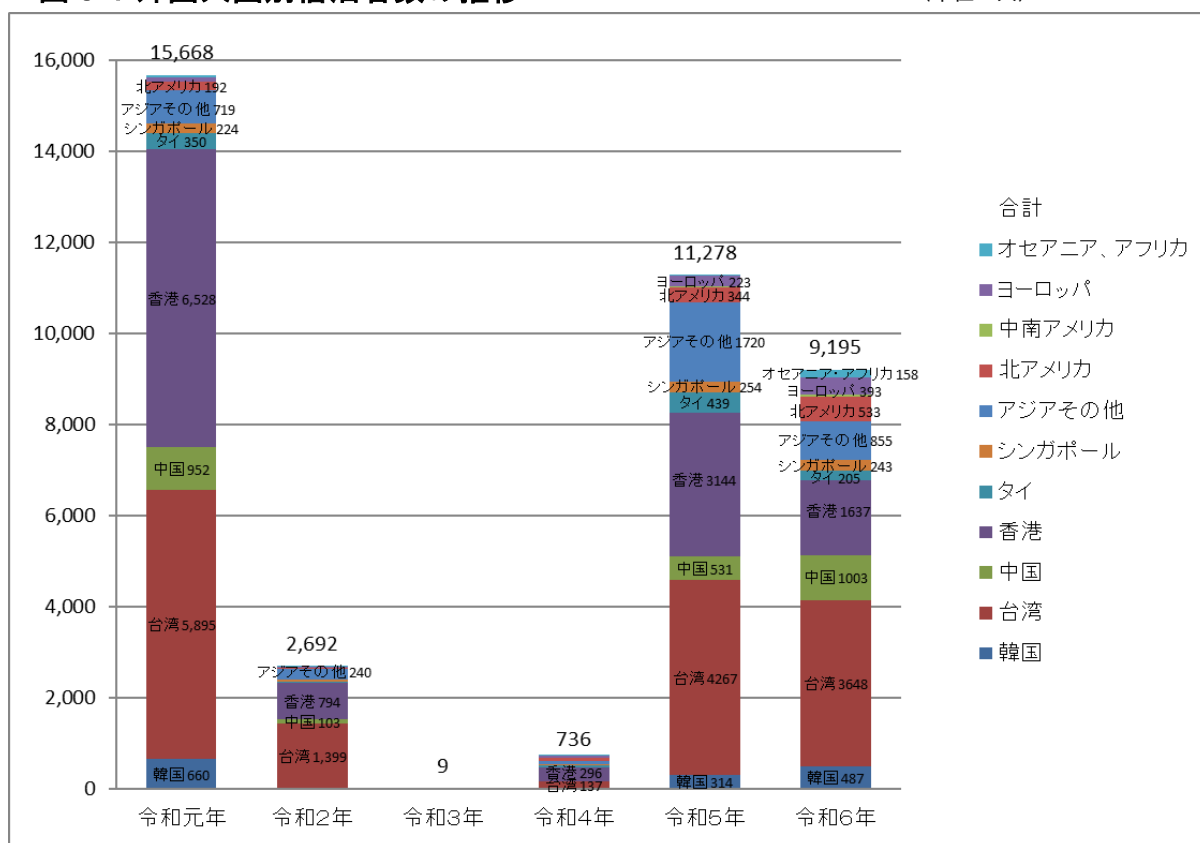
- 能登半島地震 ●北陸新幹線芦原温泉駅開業 ●北潟湖畔花火大会
- 新幹線開業記念イベント ●宿泊割引キャンペーン「あわら割」
- 北陸応援割 ●竜王戦あわら対局
- 北陸DC

IV 外国人観光客（インバウンド）について

本市における外国人宿泊客数は9,195人（対前年増減率18.5%減、2,100人減）と減少しており、欧米（ヨーロッパ：同76.2%増、170人増、北アメリカ：同54.9%増、189人増）が増加した一方で、最も本市を訪れている台湾（同14.5%減、619人減）や香港（同47.9%減、1,507人減）が減少している。

図6：外国人国別宿泊者数の推移

（単位：人）



VI 総合的評価

令和6年は、1月に発生した能登半島地震により、市内の24宿泊事業者において建物被害がみられた。宿泊施設はおおむね通常営業を継続できたが、災害の影響による旅行意欲の一時的な落ち着きもあり、1月から3月のあわら温泉宿泊者数は前年同時期に比べて慎重な動きがみられた。

そうした中、3月16日の北陸新幹線芦原温泉駅開業は、観光振興における大きな転機となった。4月以降の宿泊者数は前年実績を上回る水準で推移し、「新幹線効果」による交流人口の拡大が確認された。さらに、3月から実施された「北陸応援割」や、9月から始まった「あわら割」などの宿泊割引施策が、観光需要の回復と拡大を力強く後押しした。

市制施行20周年と新幹線開業の節目を祝し、年間を通じて多彩なイベントが実施された。3月の新幹線開業当日には、芦原温泉駅西口賑わい施設「アフレア」及びあわら温泉湯のまち広場で記念イベント「新幹線歓迎会」を開催し、計47,000人の来場者が集い、地域の祝賀ムードを盛り上げた。9月には「北潟湖畔花火大会」を開催し、25,000人が来場し、7年越しの花火大会の開催に歓喜した。10月には、福井県では初となる将棋界最高位のタイトル戦「第37期竜王戦七番勝負第2局あわら対局」を開催し、将棋イベントや関連企画、広報活動を通して、将棋ファンはもとより一般観光客や市民の関心も高まり、地域の魅力発信に寄与した。10月から12月にかけては、北陸三県、北陸経済連合会及びJRグループによる「北陸デスティネーションキャンペーン」を実施し、(一社)あわら市観光協会や芦原温泉旅館協同組合と連携しながらプロモーション活動を展開し、本市を含めた旅行商品の造成を働きかけた。

また、二次交通の面では、新幹線等を利用して来訪する観光客の利便性や周遊性の向上を図るため、観光タクシー「あわらぐるっとタクシー」やレンタサイクル「あわらぐるっとレンタル」、福井県立恐竜博物館とあわら温泉を結ぶ直通バス「あわら恐竜号」の運行など、あらゆるツールを活用して取り組んだ。

あわら温泉における発地別宿泊者数については、特に関東地方からの来訪者が大きく増加し、北陸新幹線の直通効果が顕著に表れた。また、関西地方からの来訪者も前年を上回る結果となり、新幹線の乗り換え発生に伴う影響が懸念される中でも、安定した宿泊需要が確認された。一方、中京地方からの宿泊者数は、前年と比べてやや控えめな結果となり、今後は地域別の動向を丁寧に分析しながら、さらなる需要創出に向けた施策の検討が求められる。

2 今後の方針

北陸新幹線芦原温泉駅開業により、多くの観光客が来訪している。これまで開業を見据えて関東地方へのプロモーションを重点的に展開してきたが、今後は観光DX（※3）によって得られたデータを活用し、新幹線による波及効果や来訪者の属性変化を丁寧に分析した上で、よりの確にターゲットを定め、効果的な誘客プロモーションを実施していく。また、令和6年に開催された「第37期竜王戦七番勝負第2局あわら対局」のような全国からの注目度の高いイベントを積極的に誘致することで、新たな観光需要の喚起を図るとともに、市民と観光客の交流の機会を創出し、交流人口のさらなる拡大や観光消費額の増加を促進する。

現在、北陸新幹線の開業や国内観光の活況、インバウンド需要の回復など、観光を取り巻く環境は大きく変化している。このような時代の潮流に柔軟に対応していくためには、令和5年度に策定した「あわら市観光まちづくりビジョン」や、令和7年度に改定した「第2期あわら市観光振興戦略」に示す施策を着実に推進することが重要である。今後は、これらの方針に沿った事業の展開を通じて、地域全体の観光力向上を図っていく。

北陸新幹線芦原温泉駅の開業から1年が経過し、今後の最大の課題は、この開業効果をいかに持続的な成果へとつなげていくかである。新幹線開業は地域振興の「スタート」であり、これを契機に、県や周辺自治体との連携をさらに強化し、多様な観光資源の発信や新たな交流機会の創出を通じて、持続可能な観光振興を強力に進めていく。

（※3）業務のデジタル化により効率化を図るだけではなく、デジタル化によって収集されるデータの分析・利活用により、戦略の見直しや新たなビジネスモデルの創出といった変革を行うもの。

I 地域の魅力向上と消費の活性化

「第2期あわら市観光振興戦略」の数値目標として、観光入込客数を令和11年に240万人（うち宿泊者数80万人）、観光消費額については令和11年に323億円と設定した。これは、宿泊施設の高付加価値化の取り組みや従業員不足等の課題といった実態に合わせて、単に観光客を増加させるだけではなく、サービスの向上により観光客一人あたりの消費単価の増加や市内における消費機会の創出を目指すものである。一方で、物価高騰等による宿泊単価の増加等により県内観光客の宿泊が減少していることが懸念されることから、市民や市内企業に対しての宿泊促進の喚起策も検討していく。

あわら温泉については、令和6年においては、二面温泉薬師堂と和傘を活用した新しい立ち寄りスポットを創出したほか、浴衣姿での飲食店の利用に特典を付与するなど、あわら温泉街のまち歩きを促すコンテンツ造成の実証実験を行った。今後は、コンテンツのさらなる磨き上げを行うとともに、あわら温泉屋台村「湯けむり横丁」や周辺の飲食店の利用を促進し、まち全体が活性化するような観光

まちづくりを推進する。

あわら温泉エリア以外にも、雄大な北潟湖に面した北潟エリアや蓮如上人の文化が息づく吉崎エリア、金津創作の森の芸術や宮谷石切場跡の神秘的な遺構を体感できる細呂木エリアなど、それぞれに特色ある資源が存在する。これらの地域資源を磨き上げ、多様な観光ニーズに応えることで、あわら市全体への来訪と消費の拡大を図る。また、本市には風車やバイオマス施設などのクリーンエネルギー関連施設が集積し、周辺には東尋坊や大本山永平寺、一乗谷朝倉氏遺跡など、教育旅行に適した観光地も多い。こうした強みを活かし、旅行会社へのプロモーションや教育旅行支援策を講じることで、平日の宿泊数の増加や観光需要の平準化を目指す。

さらに、観光客の満足度向上の観点から、観光ガイドの活動も重要である。現在、金津まちなかエリアや吉崎エリア、細呂木エリアで市民団体が中心となり観光ガイドを実施している。特に細呂木エリアでは、宮谷石切場跡や神宮寺城跡のガイド付きツアーが好評を博し、令和6年においては131件（1,267名）の観光客の受け入れを行った。今後は、人材の確保や育成を支援するとともに、新たなガイド付き観光プログラムを造成し、地域全体でのおもてなし体制の強化を目指す。

Ⅱ サステナブルツーリズムの推進

持続可能な観光地の形成に向けて、本市では「SDGs」(※4)の理念を踏まえ、ゼロカーボンシティの推進や自然環境との共生を図っている。持続可能な観光地を実現するためには、環境への配慮だけでなく、地域に寄り添い、経済が活性化する観光まちづくりが必要である。より一層地域や民間事業者等との関係性を持ち、地域の「稼ぐ力」を引き出すとともに地域への誇りと愛着を醸成する地域経営の視点に立った観光地域づくりの司令塔の役割を持つ団体として、観光地域づくり法人(DMO)(※5)がある。今後は、あわら市観光まちづくりビジョンを推進する中で、(一社)あわら市観光協会やあわら市商工会等関連団体との関係性や役割の明確化を図りつつ、DMO等の設立について検討を行い、持続可能な観光まちづくり体制の構築を目指す。

(※4) Sustainable Development Goals。2015年9月国連サミットで加盟国の全会一致で採択された2030年までに持続可能でよりよい世界を目指す、17のゴール・169のターゲットから構成される国際目標

(※5) Destination Management Organization。地域の多様な関係者を巻き込みつつ、科学的アプローチを取り入れた観光地域づくりを行う舵取り役となる法人

Ⅲ 観光DXの推進と情報発信の強化

情報発信の強化や観光DXの推進は、情報化社会の現代において重要な取り組みであり、移動・宿泊・購買等のデータ分析や、国内観光客だけでなく外国人観光客対応の面からも重要である。

情報発信については、市公式Instagramや(一社)あわら市観光協会Instagramなど、SNSを中心にリアルタイムに魅力発信を行う。出向宣伝についても、目的やターゲットを定め、効果的なプロモーション活動を行う。令和7年については、4月より開催されている「大阪・関西万博」において芦原温泉旅館協同組合等と連携したプロモーション活動を行い、本市の魅力発信や知名度向上を図る。

観光DXについては、(公社)福井県観光連盟のマーケティングシステム「FTAS（エフタス）」や人流データ等のビッグデータを分析し、今後の観光推進に活用する。また、(一社)あわら市観光協会では、「あわらファンクラブ」の会員拡大を進め、会員への情報提供やニーズ調査を通じて、観光プログラムの改善と満足度向上を図る。

IV 二次交通の充実

観光タクシー「あわらぐるっとタクシー」やレンタサイクル「あわらぐるっとレンタル」については、芦原温泉駅からあわら温泉街への移動手段としてはもちろんのこと、観光スポット間のアクセスを向上させ、市内周遊の促進を図ることで、経済波及効果を高める。

また、あわら温泉と県立恐竜博物館を結ぶ直通バス「あわら恐竜号」の運行など、近隣の主要観光地とのアクセス向上を図ることであわら温泉へのさらなる誘客へとつなげていく。

令和5年度から令和6年度にかけて、JR西日本「WESTER」アプリ内にあわら市専用ページを構築し、観光誘客と市内観光促進を目的としたMa a S(※6)の実証実験を実施した。今後は、実証実験の結果をもとに、市内二次交通と体験プログラムやコンテンツを組み合わせ、Ma a Sを通じて誰もが快適に旅行できる環境を整える。

(※6) Mobility as a Service。観光客の利便性向上を図るため、交通手段や宿泊施設、アクティビティ等の予約から料金の支払いまでワンストップで完結できる仕組み

図7：二次交通の実績推移

●あわらぐるっとタクシー(観光タクシー)

項目	令和4年	令和5年	令和6年
利用台数(台)	203	1,975	4,454
対前年増減率	-	+872.9%	+125.5%

●あわらぐるっとレンタル(レンタサイクル)

項目	令和5年	令和6年
利用台数(台)※	280	416
対前年増減率	-	+48.6%

※3拠点(アフレア、あわら湯のまち駅、道の駅蓮如の里あわら)

全車種(電動自転車、電動ファットバイク、電動キックボード)の合計

●あわら恐竜号※

項目	令和5年	令和6年
運行日数(日)	60	201
利用人数(人)	539	4,787
1日あたり人数(人)	9.0	23.8
対前年増減率	-	+165.1%

※令和5年:10~12月運行

令和6年:3~12月運行、4月以降は金土日祝運行

V インバウンドの推進

国の「観光立国推進基本計画（第4次）」により、インバウンド消費は令和6年に8兆1,395億円、旅行者数は同年に3,687万人と目標を達成している。今後は、地方部での長期滞在や高単価化が重要となる。

インバウンド誘客にあたっては、市単独での取り組みには限界があり、（一社）あわら市観光協会や芦原温泉旅館協同組合はもちろんのこと、近隣市町等との広域連携が不可欠であることから、坂井市、勝山市、永平寺町及び石川県加賀市の5市町で構成する「越前加賀インバウンド推進機構」を通じて広域的に外国人観光客の誘致を行う。令和6年は、越前加賀の伝統工芸の制作体験を盛り込んだ体験型観光「Traditional craft tourism」を造成し、香港・台湾向けに発信してきた。令和7年は観光庁の補助事業を活用し、「越前加賀のいいコトづくし」をコンセプトとし、あらゆるニーズに対応した体験プログラムの造成を進める。

市独自の取り組みとしては、きき酒師の資格を持つ女将による地酒ワークショップや浴衣でのまち歩きプランの多言語化など、あわらならではの体験コンテンツを強化し、特に香港・台湾向けのプロモーション活動を重点的に実施する。

また、「泊食分離」の推進により、多様なニーズへの対応と連泊促進を図り、地域全体への消費波及と滞在期間の長期化を目指す。